

# St. Luke's International University Repository

Starting publication of journal of St.Luke's Society  
for nursing research

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 日野原, 重明, Hinohara, Shigeaki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10285/578">http://hdl.handle.net/10285/578</a>

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0  
International License.



## — 巻頭言 —

## 聖路加看護学会誌発刊にむけて

聖路加看護大学

学長 日野原 重明

聖路加看護大学は、その前身は1920年（大正9年）に開設した聖路加病院附属高等看護婦学校に始まり、次いで1927年（昭和2年）に第2次世界大戦前の日本唯一の看護の専門学校としての認可の下に聖路加女子専門学校に昇格した。これは3年間の課程と1年の研究科をもつもので、旧制高等女学校を卒業したものが入学した。当時は日本における看護の指導者の育成を目指した高等看護教育施設として、日本の看護教育史の中で大きな役割を演じたのであった。

第2次世界大戦で日本は敗戦し、進駐軍の指導の下に学制が改められ、本学は1954年（昭和29年）には聖路加女子短期大学となった。次いで東京オリンピックが開催された1964年（昭和39年）には4年制の聖路加看護大学に昇格した。当時、本学は私学としての最初の4年制大学であった。

さらに1980年（昭和55年）には大学院研究科修士課程が作られ、1988年（昭和63年）には博士課程が作られた。看護学博士課程は、本学が日本で最初のものであった。

本学が大学院研究科を発足するまでは、大学の教育の役割は、レベルの高い看護教育を行って、臨床能力の高い看護婦を世の中に送り出すことにあった。そして本学は確かに看護の指導者を養成するというニーズに応えたものであった。

ところが、いよいよ本学に大学院研究科を設置するということになり、本学教員は学生の看護並びに保健の教育をすることに加えて看護学の研究者や教育者の養成をするという新しい任務を大学は担うことになった。

本学は1973年（昭和48年）からは年に1回聖路加看護大学紀要を発刊して教員や大学院生の研究業績を発表してきたが、今後、教員並びに大学院生が、看護学の研究を一層高め、本学の教員や大学院生だけでなく、卒業後に全国各地で研究や臨床看護の業績をあげている本学卒業生や本学に関係をもつ方が、研究業績を発表できる看護学会を聖路加の名の下に発足するニーズが近年高まってきたのである。

そして1996年4月13日に開催された聖路加看護学会設立総会を機に聖路加看護学会は本学の中に誕生した。第1回の聖路加看護学会学術大会は、本学の常業恵子前学部長・現特任教授を会長として、新築の竣工を記念した新校舎落成式の翌日の9月15日に、新しい講堂のALICE C. ST. JOHN MEMORIAL HALLで開催されるに至った。

日本の看護の歴史は100年を超えるが、大学レベルの看護教育施設は、在来は非常に少なく、また大学院をもつ大学数は極めて少なかった。

しかし今日の日本には、4年制大学は52校（その内、国公立は36校、私学は16校）あるが、その内大学院をもつものはまだ14校に過ぎない。本学は大学院博士課程を1988年に、日本ではいち早く設置したからには、本学の教員や大学院生、学外の聖路加看護大学同窓生または関係者の研究業績が毎年発表できる学会が開かれ、かつその業績が報告される学会誌が定期的に発行されるということは、ただ本学のためだけでなく、日本の看護学界に大きな刺激を与え、日本における看護学の健全な発達を促進することに貢献するものと本学関係者は考えるに至った。

以上の趣旨で、この度聖路加看護学会誌の第1号が発刊されるに至ったことは、本学会発足準備に携わったものとして非常に感激である。

本誌には、基礎的な看護研究とともに、レベルの高い臨床看護や地域看護の実践についての研究業績や看護教育に必要な看護の学際領域の研究が数多く発表されることを望んでやまない。

本学会誌の発行を心から喜んでこれを発刊の序の言葉とする次第である。